労山祭二日目山行③　若御子山パーティ

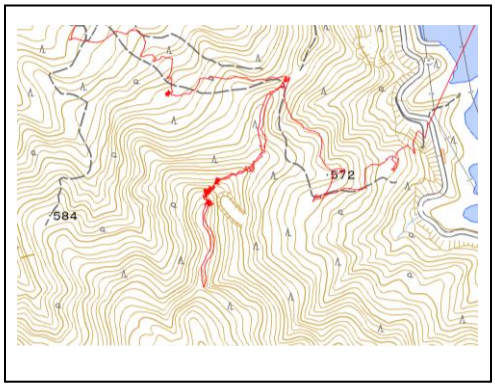
# 四つん這いでないと登れない山
## 冷や汗と涙でタオルがびっしょり

秩父鉄道の武州中川駅から千手観音堂の土俵を見学し、東側の生活道路から民家の脇をかすめ登山道に入るが直ぐに舗装された道路に出る。道路には栗のイガが散乱し、面白みに欠ける。登山道入り口には「フクジュソウ」と「クマ」「ハチ」の注意看板が設置され、沢の音が大きく響いている。鹿よけネットに入るが後になって反対側にネットが張られていないのが思い出される。南への直進と東への「いこいの広場」分岐では東方面に向かう。南への直進はP584から大反山経由若御子山への周回と思われる。

「いこいの広場」には東屋があり、奥に進むと若御子峠となる。緩斜面の尾根道から前方に赤い鳥居が見え出し、鳥居の奥に祠が3つ並んでいる。祠の裏手を登ると大岩が有り、回り込むと急斜面のザレバ。奥へ進み急斜面の岩場を登ると、手掛かりは多いが浮石も多いので落石が気になる。登り切ると広い山頂で、東側にはさくら湖を俯瞰することが出来る。

大反山に向かうが元来た道へと引き返す。若御子峠から廃家屋に向かいさくら湖へと下りる。浦山ダムには無料のエレベーターがあり河床の遊歩道まで下り15分程度で浦山口駅に着く。

（K林）




今年、大宮労山五十周年記念行事として武甲山の植樹という事でしたが、残念ながら参加することができませんでした。せめて、登山には参加しようとリーダー谷脇さんの元で若御子山にいきました。地元の人達は仕事以外はあまり登らないとの事ですが、登ってみてその理由がよくわかりました。急登で四つん這いでないと登れない山でした。そして、山頂の展望も植林の中で薄暗く、ほとんど見通しがありません。きっと、地元では春の山菜取り、かまどで火を焚く、薪取りに登る里山なのでしょう。しかし、この山にも「大きな泣虫がいた」

（福田利光）

以前からなぜか、「若御子山」という名前にあこがれていた。秩父鉄道の武州中川駅下車。とても交通便利な山。それなのになぜ、地元の人、登山者も登らないのか、不思議に思って、地元の観光案内所に電話してみた。途中まではよく整備してあるが、若御子山はルートがはっきりしていないので、地元でもほとんど登っていないという。大宮労山で何年か前、登っているが、難儀したと聞く。でも、

行ってみたかった。前日の植樹の登山道もなんとか、行くことができた、これが自信になり、思い切って出発した。また、この山の麓は春になると、しだれ桜で有名なので、「お花見」の候補にと、それも目的の一つ。まず、キャンプ場から徒歩で浦山口駅に向かう。秩父線はスイカのカードは使えない。昔ながらの懐かしい駅。「切符ください」と、駅長さんに言う。「切符？」と、不思議そうに中から出てきて、「ホレ！」と指差されたのは自動販売機、なあんだ、新しい機械があるでないか。その後も色々道を聞いたり、秩父さくら湖のエレベーターが無料と聞き、今時、無料のものがあるのかと感心したり、この駅長さんとの会話がなぜかおかしかった。叱られたりで。（この駅長さんがその後、清水さんが出会い、お茶、お菓子をもらったり、ずいぶん御機嫌だったそうだ。）武州中川駅、下車。のどかなソバ畑。しだれ桜の木の中を進む。若御子山は初めは整備された道を進む。「憩いの広場」ではあずま屋もあり、感じの良い所だ。ここで、皆さんと鍋を囲んでもよい所だ。その後、薄暗い植林帯を登る。途中、神様の立派な社殿が、つぶれていた。昔から「神山」と言われていたそうだが、神様がつぶれちゃあ、困ってしまう。その先、登ると奥社だろうか、または、先ほどの神様がつぶれてしまったので、後から作ったのか、あまり新しくないが、赤、黒、青の三つの小さな社殿があった。赤い鳥居もある。さて、ここからがすごい急坂、急登、木の根、を頼りに少しずつこらえてよじ登るがズルズル。それでも登りはなんとかなったが、帰りがいけません。リーダーの谷脇さんの指示で簡易ハーネスを付け、皆さんのロープをつなぎ、S藤Aさんが引っ張ってくださった。「ああ、これじゃあ、秩父のクマも逃げちゃうよ」と、誰かが言ってる。秋さんは楽しそうにロープを緩めたり、ひっぱったり、楽しんでいる。他の人も愉快なものを見てるみたいに楽しんでいる。他の人は笑っているけど、皆、大丈夫なのか、心配しました。若御子峠まで来て、ホッとすると同時に、冷や汗と涙でタオルがびっしょりになった。長年の夢がかない、嬉しさと感謝でいっぱいです。

（福ＤＭ）

素晴らしい秋晴れの中、私達一行七名は秩父の若御子山へむかいました。途中、クマや蜂に注意の看板に白タオル等を頭に巻き、準備万端で、勇んで登りました。頂上は木立で遮られ、視界はあまりよくありませんでしたが、私の歓迎会をしていただき、とても感激しました。ありがとうございました。下山では廃屋を見ながら、昔の生活を想像することができました。そして、懐かしい浦山ダムに下山することができ、安心しました。浦山ダムは家族で来たことがあり、その当時を思い出しました。また、この山を登ってみたいとおもいました。帰りの駅は「浦山口駅」１５時１１分に着いたが、電車は行ったばかり、次の電車は１５時５８分。ボーっツと、駅のベンチに座っていると、駅

長さんが出てきて、「今、手が空いたから」と言って、お茶を入れてくださった。お茶菓子、「チョコレート」付きだった。こちらも、お礼にミカン二つをあげた。とても親切。感激しました。この駅長さん、福田さんたちが、行きになんだかんだととらぶった駅長さん。すごく親切よ。今日の切符は秩父鉄道フリーパス。一日乗り放題１４４０円。季節と土、日曜日のみ。３６０円お得です。

（清Ｍや）

大宮祭の翌日は若御子山に参加しました。山頂では新人の清水さんを歓迎と申し、コーヒー、ケーキとご相伴に預かり、谷脇さんの気配り、山で機敏な行動力に頭の下がる思いでした。

（渡Ｂ）

駅でＨさんが自動販売機に向かって「駅員さ～ん、切符売ってくださ～い。」と叫んだ時からこの山行は笑いが途切れることは無かった。山頂でリーダー提供のレギュラーコーヒーとケーキ（買ったもの）を食べた。一つの物を分け合って食べるのって良いな。ハイキングでも共同食を積極的に取り入れよう。

最後のさくら湖エレベーターは１５０ｍも下るものでした。「下るのも、上がるのも、何回乗ってもタダ。」と駅員から説明を受けて大いに盛り上がったのに・・・、みな1回下って帰ってしまった。それにしてもあの初老の駅員、面白かったな。その駅員に私たちも「こんなお客は初めてだ。」ともいわれましたがね。

（Ｓ藤Ａ）

大宮労山５０周年記念行事の一環の「みんなで登る埼玉県の５０座」で、1つ位リーダーをやれと言われ、もらった課題。この山知らないどうしようかと山と渓谷社の『埼玉県の山』というガイドブックを開くと、その第1行目が「若御子山は支離滅裂な山だ。」で始まっていた。この言葉ですっかりこの山が気に入ってしまった。参加者も楽しくて最高の山になりました。

（Ｔ脇）

武州中川駅 9:10･･･千手観音堂 9:23･･･いこいの広場 10:08･･･峠 10:32･･･
若御子山頂 11:27/12:05
･･･峠 13:17･･･ダム湖の道 13:57･･･（ダム資料館見学）･･･浦山口駅 15:00